

表4 土偶・土版属性表

種図 No.	遺物 No.	調査 次数	旧補図 No.	遺構 グリッド	取上 層位 No.	層備考	段階	器種	遺存	土器型式等	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	観察事項	備考
75	1	1	89-3	A29	0002	2 混土具	不明	土偶	顔～胴	山形以前?	64.0	72.3	24.9	88.2	円形の貼付により顔部を表現。右乳房は剥落、左乳房は磨滅している	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第2図10より転載
75	2	1		D63	0009	4 混土具	II	土偶	顔～胴	山形	71.4	64.5	3.2	96.8	頸部で接合。表面の貼付の大部分剥落するが、右目と眉の表現はわずかに残る。	
75	3	1		D65	0012	3 混土具	III	土偶	顔	山形	41.1	59.8	29.3	37.1	肩と頸部に横断面三角形の貼付を施した後、円形の目と口が知り付けられる。後頭部には高い円形の突起を貼付。	
75	4	1		E42	0007	3	不明	土偶	顔	山形	(85.9)	(29.0)	15.3	14.8	顔の右半分が遺存。肩と頸部に突帯貼り付け後横長の目を貼付。目の中央は窪む。耳には穿孔が施される。裏面には腫文が施される。	
75	5	1		C74			不明	土偶	脚～脚	山形	64.0	55.0	40.0	105.1		
75	6	1	89-4	D61	0002	1 混土具	表土	土偶	腕	山形	41.2	27.3	25.5	29.9	内側以外、車筋LR施文後腋部と手首部に沈線施文。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図4より転載
75	7	1	89-5	C79	0007	3 S1 純土	III	土偶	左脚	山形	39.4	21.3	17.2	14.9	表面中央に縦位沈線施文後、横位に複数の沈線施文。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図2より転載
75	8	1	89-7	A17	0005	3 混土具 (茶褐色)	III	土偶	左脚	山形	45.8	23.8	16.3	15.7	臑部分は表面から側面にかけて複数の横位沈線施文。膝下部分は表面に横位沈線施文後縦位沈線施文。横位沈線のうち一糸は全周する。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図3より転載
75	9	1	89-6	D44	0010	5 上	III	土偶	左脚	山形	55.9	35.5	37.2	75.2	内側以外に車筋LR施文後、足首部分に2条の沈線を施す。つま先部分に細かな沈線のみが施される。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図6より転載
75	10	7	H26 12-39	I0T			III	土偶	左脚	山形	(62.5)	30.0	33.5	52.3		
76	11	1		E40	0009	2 S3	I-2	土偶	脚	山形?	59.9	35.5	37.2	81.5	胎土赤褐色を呈し、非常に粗い。足裏表面が剥落か。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図8より転載
76	12	1		C74	0004	4	IV-1	土偶	顔～胴	ミズク	66.0	69.0	33.0	94.7		
76	13	1					不明	土偶	顔	ミズク					左眼部分の破片。資料行方不明。	
76	14	1	89-9	D50	0001	2 茶褐色	IV-2	土偶	脚・左腕	ミズク	56.5	76.0	52.0	112.7	表面の大部分が剥落。臑部に縦位3条の槽円形の貼付	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図1より転載
76	15	1	89-8	D63	0001	2 混土具	III	土偶	左腕	ミズク	36.0	48.2	37.3	33.7	上部に矢羽状の沈線施文。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第2図11より転載
76	16	1					不明	土偶	右脚	ミズク	57.2	49.7	28.2	50.9	屈曲する臑部から臑部、臑部の最も張り出した部分に2条の縦位沈線施文後、車筋RLを表面に斜位、裏面に矢羽根状に施文。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図5より転載
76	17	2	H4 31-1	2T	60		III?	土偶	左脚	ミズク?	35.5	29.2	25.9	20.2	種断面三角形を呈する。内側に横位沈線施文。表面に3条の沈線を施し、その後縦位沈線を施文、表面内側よりには3条の短い横位沈線が充てられ、裏面には2条の沈線が施される。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図7より転載
77	18	2	H4 31-2	5T	3		III?	土偶	脚	ミズク?	59.6	22.4	20.2	25.3	先頭部から2条目の沈線のみ全周	
77	19	1	91-26	E40	0003	2 混土具	I-2	土偶	胴	晩期	51.8	40.3	21.5	39.3	把手状を呈する臑部。表面中央に2条の円形沈線を施文し、その周囲に縦線文を配置する。裏面は車筋施文施文後、中央に溝巻き状の沈線を施文し、両側縁に弧線文、上部に1条の沈線、下部に2条の沈線を施す。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第1図9より転載
77	20	1	89-1	C64	0003	4 黒褐色	IV-1	土偶	胴	晩期	75.8	98.4	42.8	210.8	胎土が灰褐色で、色調が淡褐色を呈し、非在地の土で製作された可能性あり。表面には複数の三叉文が施され、臑部と腹間に円形の粘土紐を貼付て面を表現しているものと思われ。背面には入組三叉文が施される。	山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第2図12より転載
77	21	1		C69	0002	2 茶褐色	IV-2	土偶	肩?	中空	70.1	48.8	16.9	43.2	中空土偶の肩部か、臑部と思われる。車筋RL施文後、中央に沈線が施された隆帯を貼付。複数の三叉文が施される。	
77	22	1	89-2	B38	0007	3	IV-2	土版	破片	(42.2)	86.6	24.2	77.3			山本哲也1989『君津地方の土偶』君津都市文化財センター研究紀要』III (財)君津都市文化財センター 第3図1より転載
23	1			B35	0010	3	IV-2	土偶	右脚	山形(?)	25.0	17.4	16.3	6.3	表面に沈線施す。腕の可能性あり。	
24	1			D52	0006	3 混土	III	土偶	顔?	ミズク	28.6	42.0	18.4	15.3	頸部の円形枠の一部が残存	
25	1			E12	0001	1	表土	土偶	顔?	ミズク?	1.9	3.7	14.3	8.2	頭部の一部か	